

事例C-3

「〇〇遊び」と名前の付くような活動でなくても、子どもにとっては大切な経験であり、重要な遊びです。存分に環境に関わる時間を保障することが大切です。

楽しそうだね。
いろんな音が
するね。

見て見て。
ころころ転が
るよ。

お財布作りた
いのにお金が
こぼれちゃう。

二つ折りだけでは
こぼれちゃうんだね。
紙をくっつければい
いかもね。どうすれ
ばくっつくかな。

できた。
セロハンテー
プで付けたよ。
これでお金が
入る。

わあ。大きな音が
出る。いっぱい転
がっていくよ。



3歳

事例C-4

遊びへの目的をもち、考えたり試したりしながら最後までやろうとする気持ちが継続するように、子ども一人一人の発達や願いに応じて援助することが大切です。



4歳

事例C-5

これまでの遊びの積み重ねの上で、更に遊びの中で試行錯誤するようになります。これまでの経験をうまく利用しながら新しい方法を考える手助けをしましょう。

水は流れたかな。

うまく流れない。

そうや、下に台
を置いて高くし
てみようよ。



なるほど、高さか。
いいことを考えたね。
先生もどうなるか、見
てみたい。

次はコースを曲げて
みよう！



5歳

事例C-1

学習意欲（思考力の芽生え等）

0歳児 「ポットン落としたい」

ペットボトルのふた落としの玩具で遊んでいる。

A児も一緒にするが、指先にうまく力が入らず、ふたが缶に入らない。

「難しいね。こうやってぎゅって押してごらん。」と、手を添えて一緒にやって見せる。保育者に手伝ってもらって、ふたが入り「できた。」という嬉しそうな表情で、保育者を見る。

「やったあ、できたね。」と一緒に喜ぶと、A児は今度は、自分だけでしようとするが、なかなか入らない。

A児は、他の友達の様子を見て、いろいろな缶にふたを入れようとする。

最初使っていた缶を持ってきて、「もう一回、これでやってみようか。」とA児を誘い、保育者が手伝いながらやっていたが、やっと自分だけでふたを缶に入れることができた。

それがきっかけで、繰り返し遊びを楽しむことができた。



○子どもの姿

・友達が、缶の中にペットボトルのふたを落として遊んでいるのを見て同じように遊び始めた。

○保育者の関わりの意図

・できたことを認め、一緒に喜ぶことで、もっとやってみようという気持ちをもてるようにしたい。
・なかなかふたが入らないが、保育者と一緒ですること方法が分かり、自信をもって、繰り返し遊べるようにしたい。

○この時期に大切にしておきたいこと

・保育者との受容的・応答的な関わりのもとで、思いや欲求を伝えようとするようになる。
・指先を使って、つまんだり、つかんだりする遊びをする中で、手指の発達が見られる。できるようになることで、指先を使う他の玩具も挑戦し、遊びを楽しむようになっていく。
・できた喜びを保育者と共感し合うことが次への意欲につながる。

事例C-2

学習意欲（思考力の芽生え等）

0歳児 「登れるかな降りられるかな」

子どもたちが保育室にある乳児用滑り台で遊んでいる。A児は、友達が一人で滑り台の上まで登り、おしりで滑っていく様子を見ていた。

しばらくして、滑り台の階段を下からゆっくり登っていくA児。あともう一段というところで躊躇し、進んでは戻ることを繰り返している。

「Aちゃん、ここまでおいで。」と、滑り台のところから呼ぶと嬉しそうに笑うが、やはり頂上までは登れずにいる。

A児の身体の動きに合わせ、保育者が「よいしょ。よいしょ。」「上手だよ。」と声をかけていくと、笑顔を見せ、ついに頂上まで登ることができた。

保育者が近くに寄り添いながら「登れたね、うれしいね。」と話しかけたが、今度は降りる不安があるのか表情が硬い。A児の体を支えながら「おしりズリズリしようか。」と降り方を知らせると、下まで降りることができた。「やってみたい」が「できた」に変わり、A児は満足そうな表情だった。

コツをつかんだA児は、その後、保育者に見守られながら、繰り返し登り降りを楽しんでいた。

○子どもの姿

- ・A児は、友達の様子を見て「自分もやってみたい」という思いを抱いていた。
- ・自分の手足、体をどう動かせば上手くできるのか、分からない状態であった。



○保育者の関わりの意図

- ・少し怖いと思いながらも、ほめられたり促してもらったりしながら、A児の「やりたい気持ち」が維持できるようにしたい。
- ・保育者に見守られながら挑戦して、登り降りの感覚をつかめるようにしたい。

○この時期に大切にしておきたいこと

- ・0歳児の運動機能の発達は十分ではなく、これから様々な体験を通して成長していく。
- ・子どもは、「やってみたい」という思いで、自分の手足、体をどう動かせばよいのか、試したり考えたりする。
- ・保育者が子どもの気持ちを受け止め、「できた」という達成感を味わえるような援助を積み重ねることで、更なるステップへの意欲につながる。

事例C-4

学習意欲（思考力の芽生え等）

4歳児 「自分でできた」

2、3日前から数名の子どもがカップに花はじきを入れて机の上に並べ、かき氷やさんごっこが始まった。

周りの友達（お客さん役）が紙やマジック、はさみ等を使って財布をつくっているのを見て、A児もつくりたいという気持ちを持ち、つくり始めるが、どのようにすればよいのかが分からず保育者に聞きに来た。

初めは「友達につくり方を聞いてみようか。」と声をかけるが、自分でつくりたい様子であった。

「中にお金を入れるなら袋にしなければいけないね。紙を半分に折って見たらどうかな。」とA児に伝える。

半分に折った紙の間に手作りのお金を入れるがこぼれてしまい、何度か試している。

保育者が「紙をくっつければ袋になってこぼれないかもね。どうしたらくっつくかな。」と声をかけてみた。少し考えて、セロハンテープでとめることを思いつき早速試す。

うまく袋になると「できた。これでお金入る。」

「絵をかいたら〇〇のって分かるんちゃう。」と嬉しそうに絵をかき始めた。

○子どもの姿

・友達が紙に絵をかいてハサミで切って遊んでいた姿を見て、A児も製作遊びに興味をもち始めていたところであった。しかし、自分のつくりたい物をどのように形にすればよいのかが分からず戸惑う姿があった。

・友達に聞いて教えてもらうことも恥ずかしそうにしていた。

○保育者の関わりの意図

・友達に聞いたり教えてもらったりして、子ども同士の関わりの中で何か発想が生まれればよいと思い、友達と関わるように声をかけた。

・子どもの様子を見ながら少しヒントになる言葉を出し、試したり工夫したりすることで、方法を自分で見つけ達成感を味わったり、つくる楽しさを知ったりできるようにした。

○この時期に大切にしておきたいこと

・遊びの中で友達のしていることを真似たり、一緒に会話を楽しんだりしながら友達との関わりをもつことができるようにする。

・「〇〇したい」という意欲を大切にしながら自分で試したり工夫したりする経験を積み重ね、充実感や達成感を味わい自信につなげるようにする。

・保育者は一人一人の思いやイメージを十分受け止め、周りの友達と共有して楽しめるよう仲立ちをする。

事例C-5

学習意欲（思考力の芽生え等）

5歳児 「樋（とい）つなぎ」

5月下旬、砂場で水を溜めて水たまりにしたり、魚や星の型抜きを浮かべて海をつくったりして遊ぶ様子があった。

6月上旬、樋（とい）や台となるものを準備しておいた。A児は、やかんに水を入れて砂場まで運んでいたが、水道の蛇口から砂場まで、樋を繋げて水を流すことと思いついた。しかし、樋が下を向いたり、地面と平行に設置されていたりするため、水が思うように流れない。どうすれば水が流れるか子どもに尋ねると、「樋が下を向いてるからだめだ。」「樋の下に何か置けばいい。」

「斜めに樋を傾けてみる。」と子どもなりに考えたことを試す。

A児とB児は、遊びが続くにつれて、樋と樋を洗濯バサミで固定し、長くしたり、ビールケースで高低差をつけたりして水流しを楽しむようになった。

「なるほど、高さか。いいことを考えたね。」と子どもたちの考えを認めた。

また、B児が樋をU字型につなげて水を流そうとすると、周りにいた子どもが興味を示し、「こうしたら。」と意見を出し合い、一緒に実現しようと試行錯誤する様子が見られた。「みんなで考えたの。すごいね。工夫してつくったんだね。」と声をかけると、みんな満足そうな表情を見せた。

○子どもの姿

- ・ A児は、今まであまり遊びが継続しない様子だった。
- ・ 砂場で遊ぶようになると、自ら考えたことを試す姿が増え、自分の思いを実現できたことや、保育者や周りの友達に認めてもらったことが喜びとなり、継続して遊びを楽しむ様子が見られた。

○保育者の関わりの意図

- ・ 思うように水が流れないのはなぜかを、試行錯誤しながら考えられるようにしたい。
- ・ A児が気付いたことを周りの子どもに知らせたことが、友達と一緒に遊びを進めていくきっかけになった。
- ・ 考えたことや発見したことを保育者が認め、他児に発信することで、遊びが共有され、深まってほしい。

○この時期に大切にしておきたいこと

- ・ 遊びの中の成功体験を積み重ねることで、子どもの自信につながり、新たな遊びのアイデアやひらめきが生まれ、更なる意欲につながるのではないか。
- ・ 個々の遊びを充実すると共に、友達の遊びへの興味や関心を広げることで、協同した遊びへとつながっていく。

幼児期の遊びの意味 ～5歳児の遊びから～

ここでは、子どもが夢中になる遊びの中に見える学びを、事例を通して見てみましょう。

幼児期の遊びは、身近な環境に関わり、子どもの興味・関心を生かしながら発展していきます。楽しみながら学びを追究する子どもの姿は、何日も続いたり、時には一定期間をおいた後、盛り上がることもあります。

6月頃、5歳児が砂場で樋（とい）を使って水を流す遊びは、多くの園・所でよく見られる光景です。高低差を付けて流したり転がしたりする遊びは、3歳児の頃、どんぐりを転がして遊んだ経験などから発展していきます。

この園では、6月に砂場で経験した遊びが、秋にはビー玉転がし装置に発展しました。つなぎ方や壁の高さ、支柱の立て方などを少しずつ試しながら工夫しています。



すべてを与えるのではなく、「こんなものがある
とここに使えるんだけど…。」などの意見を引き
出しながら、何日も取り組みました。

子どもの努力と工夫の詰まったビー玉転がし装置
は、園内作品展で展示されました。



作品展後、5歳児の作品に憧れ、影響を受けた
4歳児が、保育室でどんぐり転がしをつくり始め
ました。



このように、就学前教育施設での遊びは、互
いに影響し合い、学びが深まっていきます。

IV 研修の展開例及び研修資料 ～実践から評価・改善へ～

よりよい教育・保育を展開するためには、保育者自身が教育・保育を振り返ったり、幼児理解を深めたりする機会をもつことが大切です。そのための園・所内研修の方法や平成29年度の「奈良県版就学前教育プログラム」に収録した実践事例を基に作成した研修資料を本章にまとめました。

各園所における研修の充実や、質の高い教育・保育実践に役立てていただきたいと思います。

Ⅳ 研修の展開例及び研修資料 ～実践から評価・改善へ～

就学前教育に係る研修資料 ～実践事例から深める～

本資料は、平成29年度「奈良県版就学前教育プログラム」モデル園・所における実践事例を、園・所及び市町村等の研修で活用できる「研修資料」として編成しました。

場面を思い描いたり、類似した事例を出し合ったりしながら、幼児理解を深め、保育構想力を高めましょう。

ワークショップ型の園・所内研修（例）

奈良県立教育研究所就学前教育センターリーフレット「はぐくむなら 園内研修編」より

チームとしての人間関係が強いほど、教職員間で共通の目的をもっています。それが、同僚性やチームワークを生み、悩みを相談したり助け合ったりする園・所の雰囲気につながります。

- ・教職員間のコミュニケーションの充実
- ・園・所の目標や保育内容、研究主題などの共有
- ・自ら考え、行動する教職員集団づくり

これらの実現に向け、ワークショップ型の研修を取り入れてみてはいかがでしょうか。

（1回目）関係性を深める

- ・各教職員の思いや考えを十分に出し合い、互いのことをよく知り、安心して話すことのできる関係性をつくりましょう。
- ・議論ではなく、対話を心がけましょう。
- ・「ワークショップで大切にしたいこと」を伝えましょう。

<ワークショップで大切にしたいこと>

- ・自分が感じていることを素直に話す。
- ・相手の話に対する評価、否定、批判は避け、共感的に聞く。
- ・同じ目線で一緒に悩み考える。
- ・偏見をもったり、ここでの話を他人に話したりしない。

テーマに対する一人一人の考えを発言し、教職員同士の理解を深め、目的を共有し、課題解決への意識を高めましょう。

(2回目以降) 課題解決への意欲を高める

1 目的の共有、ルールの確認

- ・ 今回のワークショップの目的を説明する。
- ・ 「ワークショップで大切にしたいこと」を伝える。

2 テーマについて現状を共有する

3 テーマについて「ありたい姿」を話し合う

- ・ テーマについて、どうありたいのかを出し合う。
- ・ 理想や期待、実現が難しそうなことでもよい。

4 話し合ったポイントをまとめる

- ・ ありたい姿に近づくために、重要だと思うポイントをグループでまとめる。

5 全体で話し合ったことを共有する

- ・ 複数のグループがある場合は、全体の場で発表する。

6 これからできることを書く

- ・ 学んだこと、テーマについて今後、自分ができることを書く。

＜進行役のポイント＞

- ・ 「ワークショップで大切にしたいこと」は、毎回伝えましょう。
- ・ 発言していない人がいれば話すよう促してみよう。
- ・ 話しやすい雰囲気をつくりましょう。

研修資料及び展開例

【研修資料1】

【C3】 ドングリのコマをまわす



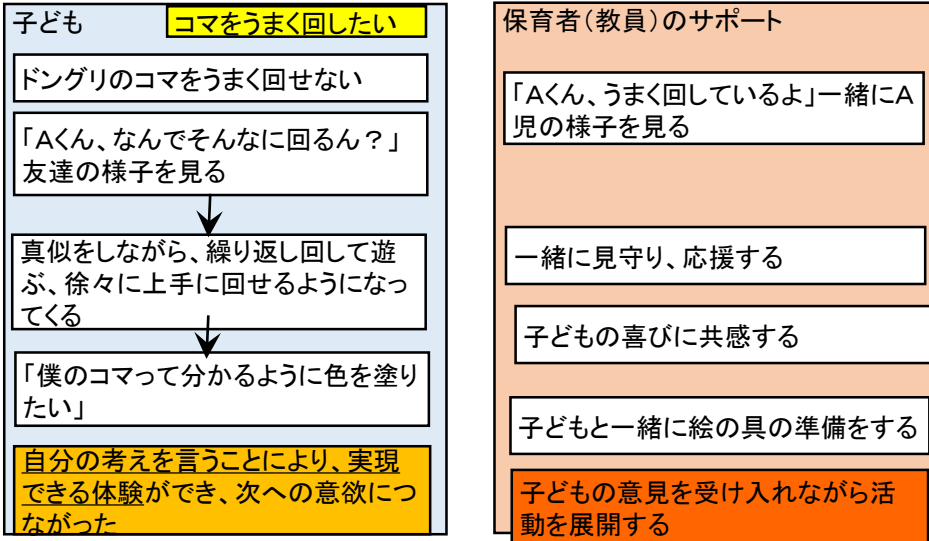
環境設定

保育室 ドングリのコマ 絵の具 筆

内容 4歳児

ドングリのコマを回して遊んでいる。最初、うまく回せずに戸惑っている

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどのようにしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
0		0			0		0		0

考えてみましょう

- 子どもの意見を受けとめ、それが実現できる体験を繰り返し経験できるようにするには、保育者はどのような環境を準備すればよいのでしょうか
- この子どもは、今後困難にぶつかった時にどんな対応をするのでしょうか

- 1 場面を思い描き、その中に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とその具体の様子を出し合ってみましょう。

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

- 2 子どものやってみたい思いや考えを受け止め、それが実現できるようにするには、保育者はどのように援助したり環境を準備したりすればよいのでしょうか。

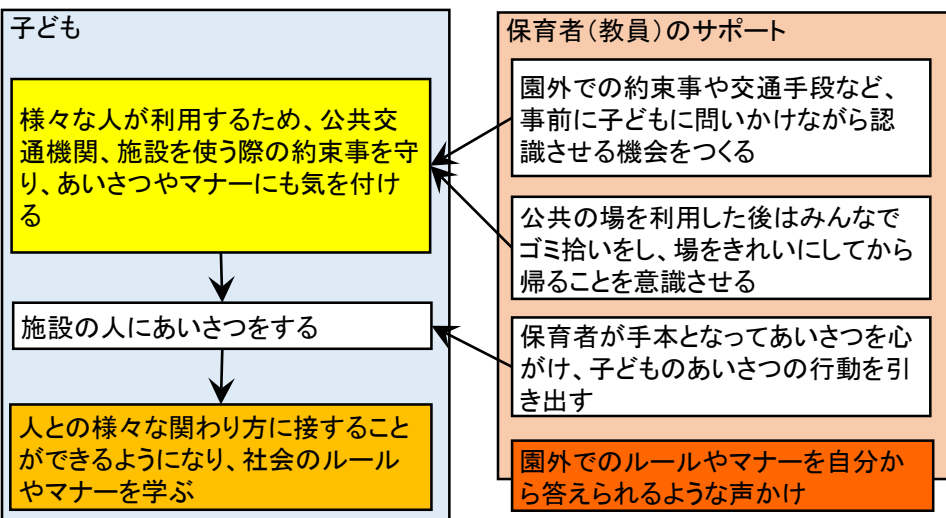
【研修資料2】

【E4】 公共施設へ出かける

環境設定
公園・施設

内容 **5歳児**
園外の公園や施設へ出かけて遊んだり学んだりする。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
	○		○	◎	○				

考えてみましょう

- 自分ならどう関わりますか
- 3歳児や4歳児ならどう関わりますか
- 体験から遊びの発展を想像してみましょう

1 3歳児や4歳児の保育では、どのような関わり方ができるでしょうか。

2 この体験から、どのような遊びにつなげていけるでしょうか。発展させた遊びをイメージして、アイデアを出し合ってみましょう。

【研修資料3】

【C6】水と砂の爆発や


環境設定

砂場 スコップ 水 水を汲む容器 筒(竹製でもプラスチック製でも可能)

内容 5歳児

数人の子どもが砂場遊びの場で水を流して川を作っている。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう

子ども 砂と水の爆発をつくりだしたい	保育者(教員)のサポート
A児「先生、もっと道具を出してほしい。川をつくるねん」	「こんなのいるかな？」と、筒(トンネル型)を1つ出す
始めは、トンネルとして活用していたが、途中から筒を立てて砂を詰め、筒を一気に抜く遊びをはじめた。最初のうちは砂が出てくるだけで面白みがなかったが、砂と水を交互に入れたり、配分を変えたりしながら、筒抜きを繰り返した。	
B児「先生来て来て、びっくりするのができたよ」	「何？どうしたん？」
保育者の声かけで他の子どもたちも集まってくる。A児・B児らは「せーの」の声かけで筒を外すと、一気に砂と水が流れ出す	「わあー、本当にびっくりしたよ。爆発みたいやわ」
道具の新しい使い方を考え、新しい遊びを作り出した	子どもが興味関心を保持する素材と活動を提供し、目標を成し遂げるための十分な時間の確保をした

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
		0			0	0			0

考えてみましょう

○この事例の「振り返り」の時間に、どのように進めるとさらに教育的効果は高まるでしょうか

○子どもと感動を共有できた経験を出し合ってみましょう

- 1 場面を思い描き、その中に見られる「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」とその具体の様子を出し合ってみましょう。

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

- 2 この事例の「振り返り」をどのように進めるとよいでしょう。上記の姿のうち、何に焦点を当てるか、どのように展開するかなど、その意図も含めて考えましょう。

- 3 子どもと保育者が「わくわくする」場面から、保育を振り返り、「保育わくワークシート」に記入してみましょう。また、それをもとに「保育ほっとホットトーク」をしてみましょう。

※保育わくワークシートは、P45からを参照

【研修資料4】

【C1】 数を数える(セミのぬけがら、いっぱい見付けたよ)

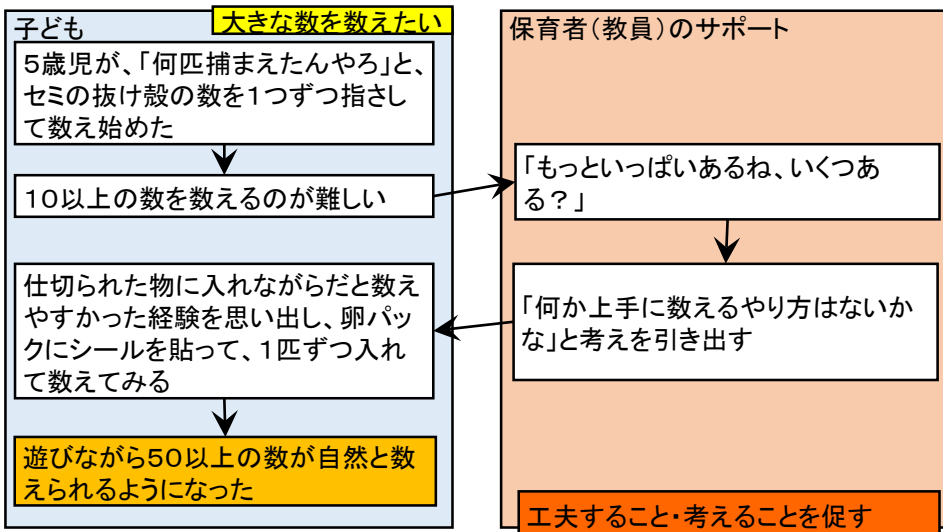
環境設定

園庭 虫取り網、虫かご、卵パック、シール、フェルトペン

内容 5歳児

子どもが見付けて集めていたセミの抜け殻を数え始める。

★こんな場面がありましたか？その時あなたはどうしましたか？まず思い出しましょう



1 セミのぬけがらの数を数えようとするとき、卵パック以外にどのような方法があるでしょうか。

2 大きな数を数えられるようになった子どもは、どのような遊びを考えそうですか。イメージを膨らませて考えてみましょう。

3 子どもたちが数を数える遊びには、どのようなものがあるでしょうか。発達段階を踏まえて、意見を出し合ってみましょう。

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
		0			0	0	◎		

考えてみましょう

- 卵パック以外に、数を数えやすくするものは何がありますか
- 大きな数を数えられるようになったこの子どもは、どんな遊びを考えそうですか
- 数遊びは他にどんな例がありますか

